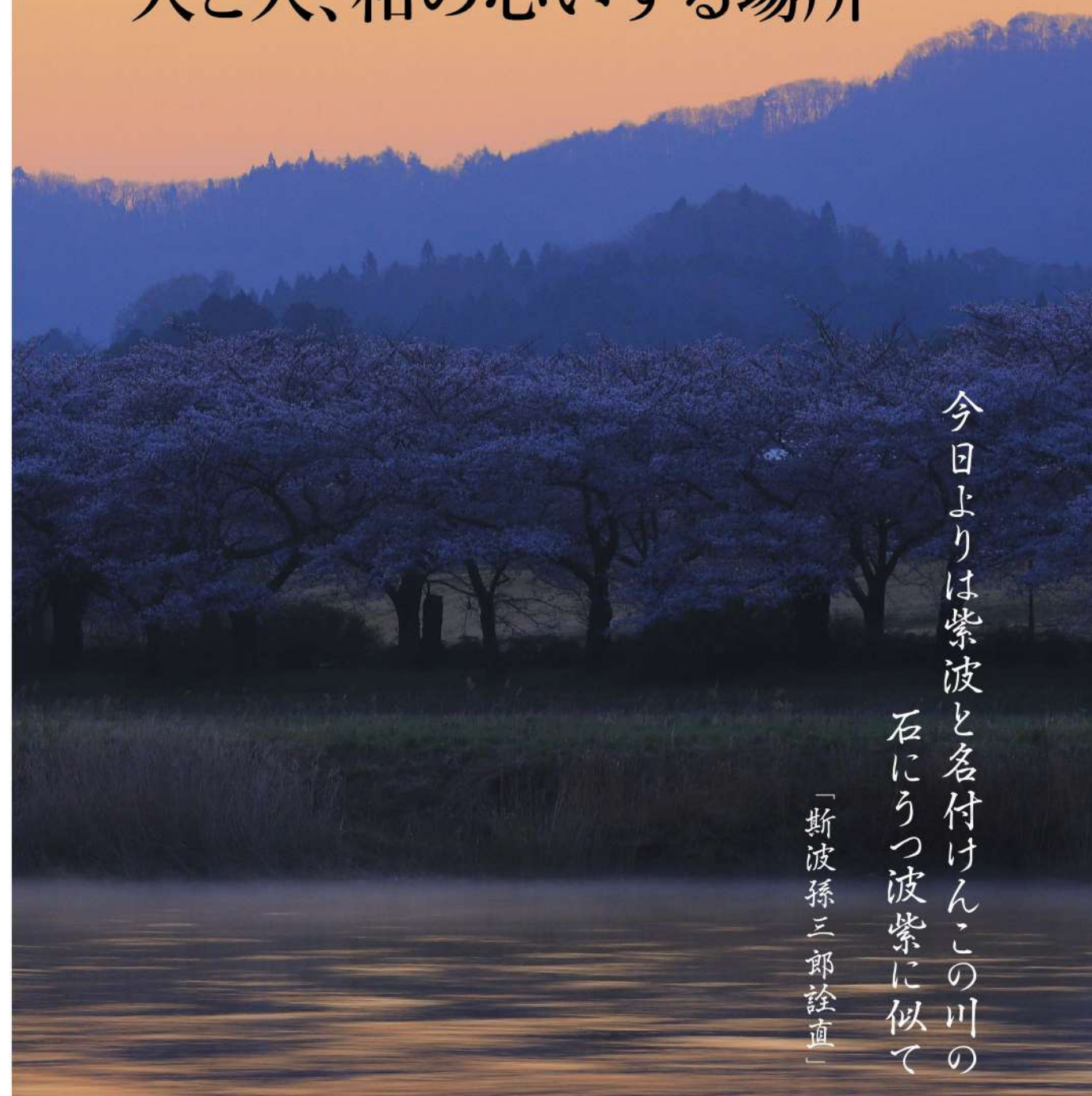


紫波文化遺産ガイドブック

# 紫波と矢巾 人と人、和の心いずる場所



今日よりは紫波と名付けんこの川の  
石にうつ波紫に似て

「斯波孫三郎詮直」

## 矢巾・紫波へのアクセス

●電車をご利用の場合

東北新幹線

東京駅—盛岡駅 2時間30分  
仙台駅—盛岡駅 50分

JR東北本線

盛岡駅—矢幅駅 12分  
盛岡駅—紫波中央駅 20分

●高速道路をご利用の場合

東北自動車道

青森IC—盛岡南IC 1時間30分  
仙台IC—盛岡南IC 1時間50分  
浦和IC—盛岡南IC 5時間20分  
盛岡南IC—紫波IC 13分

●飛行機をご利用の場合

いわて花巻空港

札幌空港（新千歳） 1時間  
名古屋空港（小牧） 1時間10分  
大阪国際空港（伊丹） 1時間20分  
福岡空港 1時間50分

※紫波町へは花巻空港より国道4号線を北上。車で25分

※矢巾町へは花巻空港より国道4号線を北上。車で35分



## 矢巾・紫波 お祭りカレンダー

	矢巾町	紫波町
1月	矢巾町郷土芸能大会 	志和八幡宮 五元日祭 裸参り 山屋の田植え踊り
2月	スミつけ祭り	紫波のひなまつり
3月		南部酒屋唄全国大会
4月	矢巾町徳丹城春まつり チャグチャグ馬コパレードin矢巾	山屋ミズバショウまつり 金山・隠れキリシタントレッキング
5月		東根山山開き
6月	南昌山山開き チャグチャグ馬コ前祝祭	全国蔵元フェスティバル 五郎沼古代ハスマ祭り
7月		紫波夏まつり  佐比内金山祭り 志和町夏まつり
8月	矢巾町夏まつり 	紫波フルーツの里まつり
9月		紫波ワインまつり  紫波産業まつり 紫波町郷土芸能祭
10月	矢巾町秋まつり	紫あ波セルミエール
12月		



一般社団法人紫波町観光交流協会  
矢巾町役場

<http://www.shiwa-kanko.jp/>  
<https://www.town.yahaba.iwate.jp/>

TAKE FREE





これを機に、平安時代の紫波では新たな政治のもとで生きることを決意した「俘囚(ふしゅう)」と呼ばれた蝦夷の人々をはじめ、異なる文化を持つ人々が共に生きる時代が始まります。俘囚長を名乗り武権を誇った安倍氏。俘囚上頭を名乗った平泉文化の奥州藤原氏。中世東北の立役者たちもまた、こうした異なる文化を持つ人々の共存する社会を基盤として歴史の表舞台に登場したのです。

弘仁2年、長い戦いの終わる年に志波城は水害に遭います。これを移築するべく征夷将軍・文室綿麻呂(ふんやのわたまる)によって建てられた古代最後の城柵が徳丹城です。その城柵跡は時代の転換点、新たな共存社会がこの紫波の地に生まれたことを今に伝えているのです。



徳丹城イメージ画



● 木製冑

2006年、井戸跡から出土しました。年代測定の結果、徳丹城造営の9世紀から百数十年も古い7世紀後半のものとして測定されています。

武具として持ち込まれた冑が水桶として転用されたのではないかと考えられています。

古代蝦夷征討略年表

大化3(647)年	淳足柵(ぬたりのき)築城 現・新潟県新潟市沼垂
大化4(648)年	磐舟柵(いわふね)築城 現・新潟県村上市岩船
神亀1(724)年	多賀城築城
天平5(733)年	出羽柵(後の秋田城)築城*
天平宝字2(758)年	桃生城・雄勝柵築城*
神護景雲1(767)年	伊治城築城*
宝亀5(774)年	蝦夷が桃生城に侵攻、鎮守将軍・大伴駿河麻呂がこれを討つ。以降38年間の戦争となる。
延暦16(797)年	坂上田村麻呂、征夷大将軍となる。
延暦21(802)年	胆沢城築城。蝦夷の総帥・阿弼流為等が降伏、処刑される。
延暦22(803)年	紫波城築城 現・岩手県盛岡市
延暦24(805)年	陸奥進軍及び平安京造営が中止
弘仁2(811)年	蝦夷征討の戦争終結。文室綿麻呂征夷将軍となる。紫波城が水害をこうむる。
弘仁3(812)年頃	徳丹城築城

えみし  
蝦夷と大和が共存する新たな地平  
律令国家最後の城柵—徳丹城

「東(あづま)の夷(ひな)の中に、日高見国(ひだかみのくに)有り。其の国の人、男(おのこ)女(めのこと)並に椎(かみ)結(むす)け身(み)文(もん)けて為人(ひととなり)勇(いさ)み悍(こわ)し。是を総て蝦夷(えみし)と曰ふ。亦土地(くに)沃壤(わくじやう)とえてひろし。」  
(『日本書紀』)

北上川流域はその川の恵みによって、東奥羽の中でも早くから稲作文化が育まれた土地です。『日本書紀』に記された日高見国は、この北上川流域を指したものとも考えられています。

古代、大和の中央政権から見た東の地は、蝦夷(えみし)と呼ばれる異なる文化を持った人々が生きる世界でした。蝦夷と大和の関係は少なくとも4世紀頃までさかのぼります。蝦夷の世界を武力をもって自らの政治下に治めるべく、城柵を築きながら東北へと侵攻を進める大和政権。対する蝦夷もこれに抵抗。その最後の戦は38年にも及び、征夷大将軍・坂上田村麻呂や阿弼流為(あてりい)といった英雄たちが攻防を繰り返します。弘仁2(811)年、ついに大和政権も政策方針の転換をせまられる形で終結をむかえました。



矢巾町歴史民俗資料館

〒028-3603

岩手県紫波郡矢巾町大字西徳田

第3地割188-2

TEL: 019-697-3704

URL <https://www.town.yahaba.iwate.jp/siryokann/>







こうして造り上げられた南部の清酒は、その原料ともなる良質な米ともども北上川の流れに乗り、石巻を経て江戸へも送られました。そして近現代、かつては東北・北海道をその中心とした杜氏の出稼ぎ先は、次第に関東そして西日本へと活躍の場を広げています。

清酒製造法が伝えられてから340年余り、代々に渡って米を作り、米を磨き、酒造りにいそしんできた南部杜氏。それは北上川の恵みを受けた良質な米、樽の資材となる材木を有した山林、精米用の水

車群とこれを動かせる滝名川の流れ、そして寒冷地として半年近くになる農閑期、これらすべての条件が重なる中で育まれた酒造り文化そのものの姿といえるでしょう。

人と人の和を取り持つお酒。北上川流域で育ち、兵庫の丹波杜氏・新潟の越後杜氏と並び称される南部杜氏は、今や日本の酒造りにはなくてはならない存在です。

### ● 南部酒屋唄

へやれば伊丹や 今つく留で お酒造りて 江戸にだす  
江戸と出す酒は 名の良いお酒 酒はよい酒 日本一  
(留仕込み唄)

杜氏たちは仕込み作業で全員の息を合わせるために歌を歌いました。しかし今日、機械化や合理化の中でそうした光景は見られなくなりました。そんな中、杜氏たちの作業歌が残され、その酒造り同様、今も多くの人に愛唱されています。かつての酒造りの文化を今に伝える杜氏たちの歌。その歌声が南部杜氏発祥の地で開催される南部酒屋唄全国大会の会場に響き渡ります。



「南部杜氏発祥之地」記念碑(岩手中央農協旧上平沢出張所跡地)

## いつの時代も人の輪の中に 今も愛され続ける酒造りの技—南部杜氏



「平安朝期の“みちのくの田植唄”の中に白き酒、黒き酒、麦の酒が唄われているから、平泉文化華やかなりし頃は、今も残る豪華な秀衡碗で(酒を)飲んでいたろうことは想像できる。」

(森嘉兵衛「南部杜氏 南部杜氏の成立と展開」)

酒造りの歴史は稲作と共にあったと考えられるものの、その起源は判然としません。素朴な口噛み酒に始まり、奈良時代には米麴を用いた酒造りが行われるようになります。稲作を行っていた北上川流域にもいつしかその技術がもたらされました。みちのくの田植唄に歌われた濁り酒と思われる白き酒・黒き酒も、あるいはそうした技術を基に造られたものかもしれません。

江戸時代に入る頃、伊丹の鴻池家により大量仕込み樽を用いた清酒の製造が開始されます。延宝6(1678)年、近江商人の村井権兵衛は大阪・三池より杜氏を招き、当時の志和村で清酒造りに着手。歳を重ね代を重ねる中、大阪よりもたらされた酒造りの技術は、紫波・稗貫の人々の手へと伝わり、農閑期の重要な職業にと成長します。

### 紫波の地酒(右から)

堀の井／高橋酒造店

廣喜／廣田酒造店 <http://hiroki.xm.shopserve.jp/>

月の輪／月の輪酒造店 <http://www.tsukinowa-iwate.com/>

吾妻嶺／吾妻嶺酒造店 <http://www.azumamine.com/>

### 矢巾の地酒(左上・左下)

南昌山・徳丹城／矢巾観光開発株式会社 <https://yahabakanko.jp/>



### ■ 一般社団法人南部杜氏協会

〒028-3171 岩手県花巻市石鳥町中寺林7-14 TEL/FAX 0198-45-2058





室岡獅子踊り(矢巾町)

## 土地に生きる人々の祈りと輝き華やかに そして勇壮に—郷土芸能～風流～



「田植踊は、東北の農民のウィットとユーモアとセンチメントにちかに触れる心地のする踊りである。  
…中略…このあどけない催しには、何か母の懐にあるやうなやすらぎを覚えたものである。」  
(本田安次『田楽・風流一』)

厄災を祓い、一年の豊作を祈り、亡き人を想う等、季節折々、人々はその思いを芸能に託してきました。ある時には大掛かりで趣向を凝らした山車と共に、そしてある時には異形異装のこしらえて、笛太鼓の音も高らかに、飾り、歌い、踊りながら、同じ風土に生きる者としての絆と想いを新たにしてきたのです。民俗学者の本田安次は、このように中世以来脈々と続く華やかな美意識に彩られた芸能を風流(ふりゅう)の名で大きくとらえました。

寒冷地ながら長い歴史を持つ北上川流域の稲作においても、毎年の順調な実りを得る事は人々の切なる願いでした。新年を迎えると、人々は農耕の次第を芸能化して歳神をもてなし、その年の豊年をあらかじめ祝うことで、実り多き一年となる事を願ったのです。山屋田植踊をはじめ、東北各地に

伝わる田植踊もまた、そうした農耕文化に根差した芸能の一つの典型と言えます。

田植踊だけではありません。とくに江戸時代、米所北上川流域には多くの人々が往来し、様々な芸能が、様々な想いと共に伝えられました。念仏剣舞。獅子(鹿)踊。さんさ踊。そして神楽・大神楽。風流の美意識を備えた芸能、そのいずれもが人の往来と共に伝えられ、人から人、親から子へと受け継がれる中で、工夫され、変容し、定着、伝承され、その郷土独自の個性を備えるものにと成長を遂げたのです。

約半年の農閑期を持つ寒冷地では、豊作は生命に直結する願いとして切実でした。その願いの深さは、芸能を通じて生命の輝きそのものとして姿をあらわします。時に笑いや熱狂を伴って人の心を解放し、再び心と心を強く結びつける力となり、その和の中に原初の安らぎを宿しながら。華やかさをもって放たれるそうした輝き—風流。

日高見国の昔以降、様々な芸能を伝えきた北上川流域は、人の絆が作る和に風流の花咲き出ずる国なのです。

### 矢巾町



#### 西徳田伝承さんさ踊り

大正末から昭和初期、東徳田幅の有志が栃内さんさ踊から師匠を招き、東徳田幅さんさ踊ができた。平成6(1994)年、東徳田幅さんさ踊より伝承を受け、西徳田地区で始められたのが西徳田伝承さんさ踊である。



#### 高田念仏剣舞

剣舞はその内容から鬼剣舞など数種に分けられる。江戸期より伝わる高田念仏剣舞は、死者の供養と浄土を求める思いの深い大念仏剣舞に分類され、阿弥陀堂を表す塔を据えた大笠を振るのが特徴である。矢巾町指定無形民俗文化財。



#### 室岡獅子踊

明治7年、徳丹獅子踊は桜屋地区に獅子踊りを伝授。その後桜屋に隣接する室岡でも獅子踊への気運が高まり、大正9年より行われ今日に至る。幕踊り系の獅子踊である。

### 紫波町



#### 赤沢神楽

天明年間(1780年代)に飢饉や世情の衰えを憂い、思想の善導と娯楽も兼ね、早池峰流岳神楽の師匠を招き、学んだところより始まる。紫波町指定無形民俗文化財。



#### 犬吠森念仏剣舞

大笠振りが特徴的な大念仏剣舞に分類される。旧赤沢村より伝えられた伝承をもち、元禄年間(1688~1704年頃)には既に成立していたと考えられ、県内の存在する念仏剣舞の源流の一つとされる。岩手県指定無形民俗文化財。



#### 山屋田植踊り

「朝やおりに水や口に咲いたる花は何花 銭や花か黄金花が咲いて長者となり花」(仲踊り)妙金が取れたことから平泉藤原氏との所縁があった紫波町山屋地区。田植踊はこの地で五穀豊穡を願い小正月を中心に行われる予祝行事。米作りや農作業を模した所作で構成される。国指定重要無形民俗文化財。

